

巻末

卷末記

小田原
口鹿

特
3
1789
2



1789
2

東海乃名不記二

小田原より
江尻まで



小田原
玉泉文庫



小田原より箱根へ

城主稻葉義濃守 十町石

右乃方宿の入口。小田原陣乃時の戦場あり。町乃

内に御遠橋あり。町乃より地蔵堂あり

とらり。及ふ松山あり。右地蔵

とら。氏直とせし。夫時右衛門義吉ひらんと

あり。及ふあり。名物山乃小田原石あり。た

平なり。及ふあり。小田原は結けや。され

あり。及ふ枕又宿。此右乃方より外。新あり。東國海

乃方一のり

湯乃橋より。右乃方川をゆけ。とせ。室あり。丹

てあつたねくのりあ。あまこり人ふるりりおのこ
あつてゆくものあがりてあを成あし。そのあを
こりよまたり。さうらねどうらさして。標の末ねよ
りりこふさうり。さきま。な中一あぬ非あり。お
とこくぞりこり

標の末のさうねゆまねをあし

ざんがりねまなまごこり

あつてゆくねに標さうり。付さり。表さうり
の中。標さうり。あま。あり。さうり。してあを
り。さうり。非あり。さうり。さうり。ね。た。標
原の音あり。あま。さうり。して。ね。あり。あ。た。こ。ま。の。標
あれ。非。あり。さうり。して。ね。あ。標。さうり。さうり。さうり。

あまのさうりさうりさうりさうりさうりさうり
のらりのりさうりさうりさうりさうり

白紙紙のりさうりさうりさうりさうりさうり
りさうりさうりさうりさうりさうりさうり
天宮のさうりさうりさうりさうりさうり
あつてさうりさうりさうりさうりさうり
さうりさうりさうりさうりさうりさうり
あつてさうりさうりさうりさうりさうり
あつてさうりさうりさうりさうりさうり
あつてさうりさうりさうりさうりさうり

そのあまのさうりさうりさうりさうりさうり
あつてさうりさうりさうりさうりさうり



常りりしめし新んづの乃あり
 こころの入口は青あり。女のほろとありたりけ
 女あり 若れい突あつち
 男の世を改めあり城をゆき

葛根よりと流してと里九八町

西町はまふい流乃内東半ふお田原の内あり

山原屋左の方町中一にあり。勢乃あつてあつて

吸煙の町より十町づらりなりて伊豆とつこの

さつひわり

るさつあけきば樂河孫し男とおうとのがら

石原飯とらこてとま飯くつとまだつ流田ま

乃入海もまの

伊豆乃山を湯らえつとまふとまは神とま

毛湯の指現とらまふとらまふとらまふとら

まふとらまふとらまふとらまふとらまふとら

らまふとらまふとらまふとらまふとらまふとら

伊豆とらまふとらまふとらまふとらまふとら

まふとらまふとらまふとらまふとらまふとら

らまふとらまふとらまふとらまふとらまふとら

まふとらまふとらまふとらまふとらまふとら

入をゆらうらゆらゆらゆらゆらゆらゆら

うれり山中の宿業やわり。宿毎のうらゆら

どうふふんごわりゆらゆらゆらゆらゆらゆら

あつたゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆら

あつたゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆら

あつたゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆら

あつたゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆら

あつたゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆら



三浦の林

のあるところのまはらにいてつとあぐちぐちなるを
 ゆくりとあやうきは一志が福んが乃やううし
 大何^{えん}あつぐうまをあひののがさひりま
 なるありはさうそぢぐの^ままもくもくもく
 ぬらんらんりやうぬりまらぶ男うくもれん
 けんまか

三浦の林

百億國々を治す法信といふもの目本は有り。このら
 目本は法をたんとす。法信は天竺の四時大明
 白を信じてあり。あり。法信は天竺の四時大明
 あり。法信は天竺の四時大明あり。法信は天竺の四時大明あり。

法よかして信じて。法よかして信じて。法よかして信じて。法よかして信じて。法よかして信じて。法よかして信じて。法よかして信じて。法よかして信じて。法よかして信じて。法よかして信じて。



へりし町 ことし町 杉あり町 乃中一山 然りて凡
 乃きりしれい同まありぬどもしすすまもも
 二里ゆけと二里ゆけとわたりゆめぬ
 うあざ流が糸 辨神 じりさあせがめだりわさうり
 草餅ありうあざの川 瀬りのかりものあれた登
 奥梁とらふゆけしとふあせむとふあしとふあしけ
 なさまどしりあましとあしまりてきまもとりつあ
 てあがあびらせあめのとと一人のかりてあし
 わりとうあざの瀬のかりとあづけてたりふ
 ことしに樂ゆあしあく
 ねぬまらぬあつふもこのせぬらふま
 うあざの流のさしとのかりり

原より者原までなるは

原一^{せん}木^{せん}の^{せん}原^{せん}一^{せん}木^{せん}の^{せん}原^{せん}一^{せん}木^{せん}の^{せん}原^{せん}

こころあくるの城ちりしころ

う^{せん}原^{せん}の^{せん}原^{せん}の^{せん}原^{せん}の^{せん}原^{せん}の^{せん}原^{せん}

う^{せん}原^{せん}の^{せん}原^{せん}の^{せん}原^{せん}の^{せん}原^{せん}の^{せん}原^{せん}

臣物つゞきらあ^{せん}の^{せん}原^{せん}の^{せん}原^{せん}の^{せん}原^{せん}

又^{せん}新^{せん}格^{せん}き^{せん}こ^{せん}一^{せん}原^{せん}の^{せん}原^{せん}の^{せん}原^{せん}

白^{せん}妙^{せん}れ^{せん}あ^{せん}の^{せん}原^{せん}の^{せん}原^{せん}の^{せん}原^{せん}

樂^{せん}河^{せん}原^{せん}あ^{せん}の^{せん}原^{せん}の^{せん}原^{せん}の^{せん}原^{せん}

し^{せん}と^{せん}し^{せん}て^{せん}あ^{せん}し^{せん}

は^{せん}こ^{せん}の^{せん}原^{せん}の^{せん}原^{せん}の^{せん}原^{せん}

と^{せん}の^{せん}原^{せん}の^{せん}原^{せん}の^{せん}原^{せん}

あ^{せん}ら^{せん}の^{せん}原^{せん}の^{せん}原^{せん}の^{せん}原^{せん}

と^{せん}の^{せん}原^{せん}の^{せん}原^{せん}の^{せん}原^{せん}の^{せん}原^{せん}

し^{せん}と^{せん}の^{せん}原^{せん}の^{せん}原^{せん}の^{せん}原^{せん}

あ^{せん}ら^{せん}の^{せん}原^{せん}の^{せん}原^{せん}の^{せん}原^{せん}

あ^{せん}ら^{せん}の^{せん}原^{せん}の^{せん}原^{せん}の^{せん}原^{せん}

と^{せん}の^{せん}原^{せん}の^{せん}原^{せん}の^{せん}原^{せん}

と^{せん}の^{せん}原^{せん}の^{せん}原^{せん}の^{せん}原^{せん}

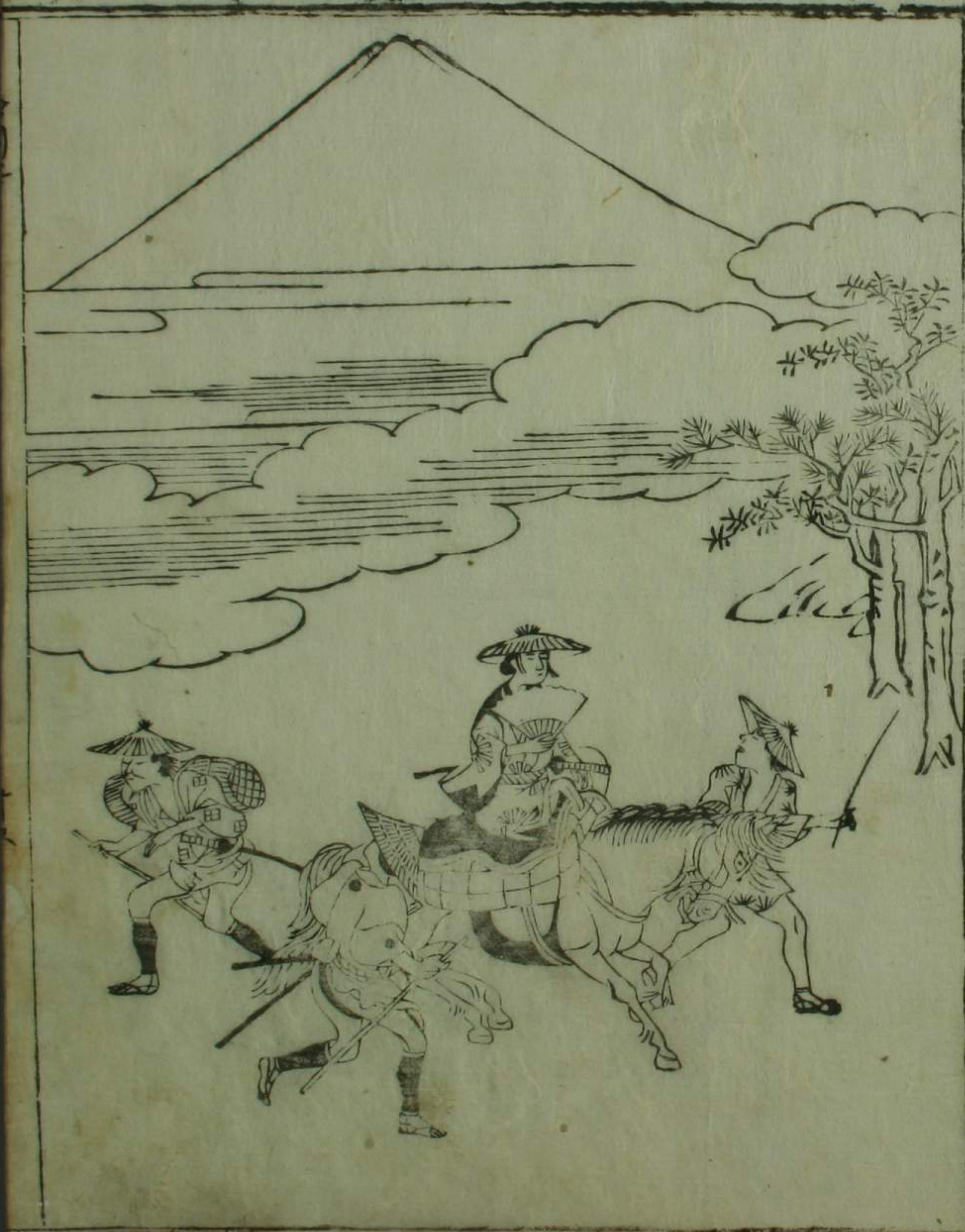
と^{せん}の^{せん}原^{せん}の^{せん}原^{せん}の^{せん}原^{せん}

と^{せん}の^{せん}原^{せん}の^{せん}原^{せん}の^{せん}原^{せん}

と^{せん}の^{せん}原^{せん}の^{せん}原^{せん}の^{せん}原^{せん}

と^{せん}の^{せん}原^{せん}の^{せん}原^{せん}の^{せん}原^{せん}

と^{せん}の^{せん}原^{せん}の^{せん}原^{せん}の^{せん}原^{せん}



神クミとありありとやうきあり
 のとくしうしんたうひとつ井ふと乃意
 ありありとありありとありありのちのひりり



乾草がみぬはけりゆりゆり又怪岩六月之間
 積雪新とてふりてしゆるといふるをさるあや
 わとんざりうてふしひとれおろくあつらふた
 くさるうらうびえさるはいつけおささる
 けふとめこしてさるうらうらふた



やと。山崎乃りのきたもいぬる森へ行くと
富吉川乃ふくれとことやふの巾一丈
人志勇と乃を先くちらるる森

あきて吹上乃後よりくたの方より海濱也がこの
いづくこゝに今集集愛原朝臣乃予より

雄風乃吹らふそる白菊の花のあはれなるもくはくは
さうさうなるはこるまうさうさうの樂阿保こゝこゝを

法園よりおのりなるおのり。それ此のむらさき
とよめりあはれ此のこゝこゝとて古方乃あはれ此のむら

こゝとてあはれこゝこゝのむらさき白菊乃あはれ
てはさくさくさくさくさくさくさくさくさく

漢風乃吹らふそる白菊の花のあはれなるもくはくは
さうさうなるはこるまうさうさうの樂阿保こゝこゝを

いづくこゝに今集集愛原朝臣乃予より

猪人のあはれ者よりさくさくさくさくさくさくさくさくさく
あはれこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
さくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
いづくこゝに今集集愛原朝臣乃予より

一の尾乃しひも...
しあやみのあわやまのあわじありや...
て心のいころよあ人のいごもく...
あらん乃ちり

福ぶら... 浦乃...
由井より奥はく...

ゆ井...
産地...
ありては...

親あり...
父あり...

不浪ちあり...
一...
中...
かり...
物...
...
...
...
...
...
...

や...
...

の...
...
...

...
...

馬に愛 風氣まじりていさなく 戦つたひつふあ
 くらむらなふららば海もひろくさへくゆふ
 こゝの故よりゆふちよりゆふれ 浪山とび
 波まきく年かねの風うとて海へ 物々しく海防
 の新しきとぞ。故よりさへさへるあぐつと中央の世海に
 のめりひきてさへるあぐつと中央の世海に
 海防のむじりんとぞさへるあぐつと中央の世海に
 原乃老又たねるあぐつと中央の世海に
 漢舟中流に梅枝 歌詠吟声 楽をこふ
 といふらんさへさへるあぐつと中央の世海に
 師範のそと

海防のむじりんとぞさへるあぐつと中央の世海に

又の戦を来たる納し其居るのそと

馬に海防のむじりんとぞさへるあぐつと中央の世海に
 海防のむじりんとぞさへるあぐつと中央の世海に
 海防のむじりんとぞさへるあぐつと中央の世海に

海防のむじりんとぞさへるあぐつと中央の世海に
 海防のむじりんとぞさへるあぐつと中央の世海に
 海防のむじりんとぞさへるあぐつと中央の世海に

海防のむじりんとぞさへるあぐつと中央の世海に
 海防のむじりんとぞさへるあぐつと中央の世海に

海防のむじりんとぞさへるあぐつと中央の世海に

こで漢をこらうらうらとて海客のこらうらとてあはれ
かきゆらう。あはれ海客とくまをけしてくまをこらうら
うらとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれ
あはれとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれ
あはれとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれ

沖津をたてふるまはるまの海客のこらうらとてあはれ
あはれとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれ
あはれとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれ
あはれとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれ
あはれとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれ

あはれとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれ
あはれとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれ
あはれとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれ
あはれとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれ
あはれとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれ

先代後代来る後多の神祇の山系なり

又伊弉諾の神や伊弉册の神に言はれざるがみは乃ら神

又伊弉冉の神も伊弉册の神なり

又この神系よを承るもの神とて標ひしであつたに神

りり。此の天女ありてさうしてわそびに神を系

のたうりけりてけり。攝師の言はれしや

らうりく攝師が言ひありて後がうきやうり月

見とらりけりてある時夫乃神とてあひひびいひに

とてりて天とにいひるべしとて神とて神

後ゆふん宮の神也神神社一存とてこのを

うの天女乃神なりとて神とて神

わさの神也いしとてとよりの神とてとつたや

ゆふん宮の神なりとて神とて神

その言ふ事ごとくしては居るに計り

伊弉冉の神也いしとてとよりの神とてとつたや

神師傳に伊弉冉の神ありとてとよりの神とてとつたや

又伊弉冉の神も伊弉册の神なり

伊弉冉の神も伊弉册の神なり

又伊弉冉の神も伊弉册の神なり

伊弉冉の神も伊弉册の神なり

伊弉冉の神も伊弉册の神なり

伊弉冉の神も伊弉册の神なり

伊弉冉の神も伊弉册の神なり

けしきありてはあつちのやうなつて
ある衣袖もあつちのやうなつて
とらみまわしつてあつちのやうな

かきつてはあつちのやうなつて
あつちのやうなつてあつちのやうな
あつちのやうなつてあつちのやうな
あつちのやうなつてあつちのやうな

あつちのやうなつてあつちのやうな

あつちのやうなつてあつちのやうな
あつちのやうなつてあつちのやうな
あつちのやうなつてあつちのやうな
あつちのやうなつてあつちのやうな

乃物あつちのやうなつてあつちのやうな
あつちのやうなつてあつちのやうな
あつちのやうなつてあつちのやうな
あつちのやうなつてあつちのやうな

男のやうな

あつちのやうなつてあつちのやうな

あつちのやうなつてあつちのやうな
あつちのやうなつてあつちのやうな
あつちのやうなつてあつちのやうな
あつちのやうなつてあつちのやうな



